安楽寺だより

平成３０年　春　№３１号

苦悩の抜ける穴を信心といい
苦悩の抜ける音を念仏という　　大河内了悟

みなさん、めっきり暖かくなってきて、裏山の木々も青々としてきました。「暑い～」と言わなければならない時期も、もうまもなくです。体調管理に気をつけて下さい。

さて、今回は法名（ほうみょう）についてです。仏教の宗派は、おおむね、俗世間から離れ、出家して僧になり仏道を歩むと、新に師より名前をいただきます。僧名すなわち戒名（かいみょう）です。戒律を守っていくための名前です。

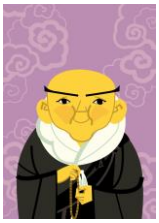
私たち浄土真宗の門徒は、戒を受けて出家して仏道修行は行わないため、戒名といわず、法名（ほうみょう）といいます。必ずすくい浄土へ迎えとるというはたらきを「法」と呼び、その法のなかに生かされる私たちがいただく名前であるので「法名」というのです。出家せずに浄土真宗のみ教えのもとに社会生活を営む門徒の名前です。

法名は、通常「おかみそり」という「帰敬式」（ききょうしき）を本山で行い、生前中にご門主からいただきます。ただし「おかみそり」を受けずにいのち終えたとき、本山に行くことができないので、お取次ぎの住職からいただくことになるのです。

法名は、最初に「釋」の字が付きます。お釈迦さまのお弟子になったということです。その後二文字の名と決まっています。本山でいただいた法名は、ご門主がお経さまから選び取られています。当然「おかみそり」を受けられた方々のことを知る由がないため、順に定められていくのです。

また院号は、基本、寺院を守るために功労した方におくられていたもので、現在は本山へのご懇志にても、受け取ることが可能です。

以前この法名のことで、「取り直しができるのでしょうか」と質問される方がおられました。女性の方で、「厳」という字がついて、しっくりこなかったようです。



「厳」は、字のごとく「きびしい」というイメージがあるため、女性の方が嫌がるのはわかりますが、法名は一般に使われている意味とは異なる場合があります。「厳」は、仏教語で「みごとに飾り整えられた」という意味にあたります。

法名は、日頃目にしない文字がついたり、難しい文字であったりする場合もあります。

すべては、仏語（ほとけの言葉）です。希少なご縁のなかでご門主からいただいた名前ですから、堂々と名のりをあげて、「この名と共に生きていく」と思いで大事にしていただきたいものです。　　釋　芳英